

CAMK Collection Exhibition Vol.7

2023

4/29_{sat} ~ 6/25_{sun}

Closed on Tuesdays

10:00_{open} 20:00_{close}

MEMORY STORAGE FOR THE FUTURE



FUTURE

マリナ・アブラモヴィッチ《Count on Us (Star)》

2003 映像インスタレーション 熊本市現代美術館蔵

©Marina Abramović, Courtesy of the Marina Abramović Archives

CAMKコレクション展 Vol.7

未来のための記憶庫

熊本市現代美術館

主催：熊本市現代美術館 [熊本市・公益財団法人 熊本市美術文化振興財団] / 熊本日日新聞社

後援：熊本県 / 熊本県教育委員会 / 熊本市教育委員会 / 熊本県文化協会 / 熊本県美術家連盟 / 熊本国際観光コンベンション協会

NHK熊本放送局 / J:COM 熊本 / エフエム熊本 / FM791

助成：一般財団法人地域創造

MEMOR STORAC FOR T

多くの方にとって、美術館とは「展覧会を観に行くところ」かもしれません。しかし美術館には展覧会の開催と並行して担い続けているさまざまな役割があり、その重要なひとつが「コレクション」をめぐる仕事です。

熊本市現代美術館の作品収集方針にはその収集対象の基準として、地元ゆかりの作家の作品、国際展などで発表された優れた作品、当館の各展覧会で紹介した作家の作品、といった事項を掲げています。本展では、これらの収集方針に対応する構成で、地元の美術史をさまざまな側面から物語る作品群をはじめ、世界的作家が熊本での展示を機に制作したコミッション作品や、近年の時代状況を反映した若手作家の仕事まで、当館コレクションのエッセンスをご紹介します。

各種の展覧会は、会期を終えれば姿を消してしまいます。しかし、その企画や作品の記憶は、展覧会の同時代にいわれた人々だけでなく、10年後、20年後、さらに未来を生きる人々にも共有され続けていくことになります。それらの企画や作品は、コレクションによって「熊本の一部となる」ともいえるでしょう。コレクションとは時代を超えて受け継がれる一種の記憶庫であり、地域のアイデンティティを形成する存在でもあるのです。今回のコレクション展示をとおして、熊本市現代美術館の20年あまりの活動のなかで蓄積されてきた文化的記憶をたどるとともに、パブリックコレクションの意味を確かめ直すことができれば幸いです。

【関連イベント】

① トーク&ワークショップ「記憶庫から記憶を引き出してみる」

作品や資料は、それ自体がさまざまなことを物語るものであると同時に、人の記憶を呼び覚ます触媒にもなりうるものです。このイベントでは、展覧作品の制作過程や展示、収集などの場に関わった人々とともに会場を回り、各作品にまつわる記憶をよみがえらせ、ご来場の皆さんと共有したいと思います。

[日時] 4月29日(土・祝) 14:00-15:00
[アテンド] 佐々木玄太郎(熊本市現代美術館 主任学芸員)ほか
[場所] 展覧会会場内
[定員] 15名 要展覧会チケット 事前申込不要

② 熊本市現代美術館アートワークツアー

当館には館内のさまざまな場所に建築と一体化した形で作品が設置されています。このツアーでは各作品をめぐり、制作当時のことも振り返りつつ、パーマメント作品のおもしろさと難しさの両面についてお話します。

[日時] 5月7日(日)/6月3日(土) 14:00-15:00
[アテンド] 富澤治子(熊本市現代美術館 主査・学芸員)ほか
[場所] 館内フリーゾーン
[定員] 各回15名 参加無料 要事前申込

③ 熊本市役所アートワークツアー

熊本市民にとって最も身近なアート作品といえば、熊本市役所に点在している地元作家のそれかもしれません。このツアーでは、風景の一部として慣れ親しんでいるそれらの作品に改めて注目し、その制作時の構想と現在の状況を見比べながら、「パブリックなアート」のあれこれについて考えます。

[日時] 5月24日(水)/6月16日(金) 14:00-15:30
[アテンド] 佐々木玄太郎(熊本市現代美術館 主任学芸員)、熊本市役所職員
[場所] 熊本市役所庁舎
[定員] 各回10名 参加無料 要事前申込

④ トーク「更新される“コレクション”の概念」

現代の表現者たちは、パフォーマンスやアート・プロジェクトといった形に残りにくい表現手法を用いて活動を行うことも少なくありません。それらは現在の表現活動の重要な一部ですが、美術館のコレクションは果たしてそれらをどのように扱おうのでしょうか? 文化財・芸術の保存と継承を専門とする研究者で、当館の収集活動にも関わっていただいている平論一郎さんを講師に招き、当館の直近の収集活動も例に挙げながら、その考え方についてお話いただきます。

[日時] 5月13日(土) 14:00-15:30
[講師] 平論一郎(東京藝術大学 未来創造継承センター 特任准教授/熊本市美術館等収集審査委員会委員)
[場所] ホームギャラリー
[定員] 50名 参加無料 事前申込不要

関連イベント申込方法

関連イベント②③については、以下の事項を記載の上、メールでお申込ください。

(1)参加希望のイベント名 (2)お名前 (3)電話番号 **申込先** gamadas@camk.or.jp



陸揚《器世界の騎士》2018 3チャンネル映像 MPS-15sk "Multi" © IKEUCHI Hiroto

【展示会場と出展作品について】

本展では、企画展示室内での作品展示のみならず、美術館建築と一体となって展示されている常設作品や熊本市役所内の恒久設置作品も本企画の「出展作品」の一部としてとらえ、改めてスポットを当てます。それぞれの会場について鑑賞ツアー等のプログラムを実施することで、広い視野をもってパブリックコレクションの意味を考えていきます。

各
会
場
展
出
作
家

熊本市現代美術館 ギャラリー 1,2

※ 作家名はいずれも順不同

井手直通、浜田知明、田代順七、坂本善三、海老原喜之助、千賀友子、春口光義、板井榮雄、淵田安子、今田淳子、林浩、青木豊、坂本夏子、川内倫子、秀島由己男、石内都、吉山安彦、奥井紀子、入江章子、中原繁敏、木下今朝義、森繁美、奥井喜美直、大山清長、マリーナ・アブラモヴィッチ、佐々木耕成、菊畑茂久馬、森山安英、吉村益信、田上賢二、真珠子、陸揚、浦川大志、名もなき実昌、日比野克彦

熊本市現代美術館 フリーゾーン

宮島達男、ジェームズ・タレル、マリーナ・アブラモヴィッチ、コーダ・ヨーコ、ユック・クンピョン、藪内佐斗司、草間彌生、李禹煥、三沢厚彦

熊本市役所 庁舎

坂本善三、関根伸夫、坂田憲雄、三浦洋一、柳原義達、村上賢秀、生田義廣、中根宏、沢田麗子

【観覧料】

- 一般: 600 (500) 円
- シニア: 500 (400) 円 ※ 65歳以上
- 学生: 400 (300) 円 ※ 高校生以上
- 中学生以下無料

()内は前売、20名以上の団体等の割引料金

《チケット取扱》熊本市現代美術館
ローソンチケット
セブンチケット

*各種障害者手帳等をご提示の方とその付き添い1名は無料
*割引の詳細については美術館 H.P をご覧ください
*前売券は4月28日(金)まで販売



浜田知明
《セルバンの門》
2004
ブロンズ



石内都《不知火の指 #4》2014-2017
ゼラチンシルバープリント



木下今朝義《収容所時代》1998 キャンバス、油彩



浦川大志
《熊本駅から風景(撃つ用意)》2019
パネルに綿布、ジェッソ、アクリル



大山清長《裸婦》1989
キャンバス、油彩

◎掲載作品はすべて熊本市現代美術館蔵

熊本市現代美術館

CAMK = Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市中央区上通町2-3 びふれす熊日会館3階
TEL 096-278-7500 www.camk.jp

火曜休館 入場は19:30まで

[交通アクセス]

JR 熊本駅から
➡市電またはバス「健軍町」行(約15分)
JR 新水前寺駅から
➡市電またはバス「熊本駅」「上熊本駅」行(約10分)
阿蘇くまもと空港から
➡空港バス(約40分)
※いずれも「通町筋」電停・バス停で下車、徒歩1分